

## 1 学校教育目標

- 心豊かで思いやりのある子ども      ○自ら進んで考え、工夫する子ども
- 健康でねばり強い子ども              ○たがいに協力し、進んで実行する子ども

## 2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	確かな学力と豊かな心、健やかな体の本気で育てる学校 ○学力を定着させる学校              ○豊かな人間性をはぐくむ学校      ○体力・運動能力を高める学校 ○家庭・地域が協力し合う学校      ○組織的に教育活動を展開する学校
○児童・生徒像	○心豊かで思いやりのある子ども（あいさつをきちんとし、誰に対してもやさしく思いやりのある子） ○自ら進んで考え、工夫する子ども（自ら考え、自ら学ぶ意欲を身につける子） ○健康でねばり強い子ども（健康で、我慢強く最後までやりとげる子） ○たがいに協力し、進んで実行する子ども（自分で考え自分で判断し自分で行動し責任をとることができる子）
○教師像	○プロ意識をもち、教育活動を生き甲斐とを感じる教師 ○子どもと共に自ら伸びようと努力し続ける教師

## 3 学校の現状及び前年度の成果と課題

1 学校の現状      新型コロナウイルス感染防止策を徹底しながら、児童の学びを保障するために最大限の努力をしている。

2 令和3年度の成果と課題

【成果】

### ■学力向上

○J Tによる授業力の向上と徹底した個々の学力分析による個に応じた指導によって、令和3年度足立区学習定着度調査では、2教科の平均通過率が89.1%となった。全学年とも平均正答率、通過率ともに7年連続で区の平均と目標値を上回った。

### ■教師の指導力向上

東京都O J Tガイドラインで求められている目標を達成するために、各教員の職層と経験年数、資質と能力から、個に応じた指導や助言を行った。若手教員及び新任教員には各教科で「あだちスタンダード」の授業ができるように、管理職と区教科指導専門員で継続的な指導を行った。特に、「算数」では、児童の自力解決を大事にした問題解決型授業展開の指導法が継承されている。ベテランから若手までの全員が本校の学習における課題について強い危機意識をもって、自己の授業力の改善を図れた。

### ■心の教育の充実

一人一人が自分自身のリーダーになり、自信をもって、実りある充実した人生を送れるようにするために、「リーダー・イン・ミー」を心の教育の柱として推進した。また、Q U調査を年2回実施し、学級全体と児童個々の状況や学級内の対人関係をデータによって明確に把握した。管理職と学年とのデータに基づくミーティングを定期的にも実施し、児童個々に対する方策を練らせた。データに基づく声かけや励まし等で、児童の自己肯定感が高まってきている。一層の心の教育を推進する。

【課題】

### ■カリキュラムマネジメントの推進

S D G sを意識し、理念の理解をしながら本校や地域の実態に応じた学習を展開する。また、持続可能な社会の創り手を育成する。

## 4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R2	R3	R4	R5	R6
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	教師の指導力向上と心の育成	○	○	○	○	○
3	保育園・幼稚園・中学校との連携	○	○	○	○	○

## 5 令和4年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
足立区平均通過率と同水準を達成する。		足立区学力定着度調査 区平均通過率の数値							
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象・実施教科	頻度・実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	学力向上 児童理解 対策会議	学年単位	①4月 ②6月 ③11月 ④1月 ⑤随時	【指導者体制】 管理職・学力向上委員長 【取組みのねらい・目的】 学力結果、QU結果の分析 と対策 左記時期と対応 ①前担任→現担任 ②③④学年単位で個別分析 ⑤上学年→下学年	学力調査 再調査 プレテスト QU調査Web 版 (2回)	目標通過率 学級生活満足 群の割合向上			
2 新規	AIドリルの活用	2年生以上 国語社会 算数理科 英語	・朝学習 ・授業 ・補習 ・家庭学習	【指導者】学級担任 算数少人数 朝学習、授業、家庭学習等 において、個別最適化学習 を行い、学びに向かう姿勢 を向上させ、学力の平準 化、底上げ、向上を図る。	管理機能で正 答率や回答時 間を確認す る。	個別課題の数 値向上			

3 改善	ICTの活用	全児童	毎日	<p>【指導者体制】全教員 情報教育部作成の情報教育年間計画及び「情報活用能力花保小モデル」に基づいて授業計画を立て実施。1人1台のタブレットを活用する授業実践を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報教育の年間計画を作成する。</li> <li>・ICTを活用した授業実践の公開</li> <li>・校務省力化の実感する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「情報活用能力花保小モデル」に合わせたの習熟</li> <li>・ICTを活用した授業実践の活用</li> <li>・校務省力化の実感する。</li> </ul>			
4 改善	MIM	1学年児童	毎月	<p>【指導者体制】 1年担任、日本語指導</p> <p>【取組みのねらい・目的】 特殊音節の定着（読み・書き） 読みの流暢性を高める。</p>	毎月、アセスメントを実施する。	年度末までに 1st ステージ 80%以上 2nd ステージ 20%以下			
5 継続	個に応じた指導	全児童 国語 算数 読書	年間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝学習</li> <li>・花保ステップタイム</li> <li>・放課後学習</li> <li>・放課後補習</li> <li>・そだち保護者面談</li> <li>・パンダとコアラからの挑戦状</li> <li>・家庭学習ノート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京ベーシック診断シート、及び次へのステップなどのミニテストを実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度末までに東京ベーシック診断シート正答率90%、毎回のミニテストで正答率80%以上の結果。</li> <li>・読書量の増加。</li> </ul>			
6 継続	かけ算九九検定免許証制度	2学年以上の全児童	5月～2月	<p>【指導者体制】 検定者は、管理職、算数少人数担当者。指導は、担任と算数少人数担当者。</p> <p>【取組みのねらい・目的】 ゴールド、普通免許制度の工夫で全員が習得。</p>	学力向上委員長と担任が連携して記録し、管理職に提出する。	普通免許全員取得。			
7 新規	英検サポートプログラム	6年生 外国語	外国語授業時	<p>【指導者体制】 担任 外国語講師</p> <p>【取組みのねらい・目的】 ポートフォリオでの目標確認と達成状況の確認</p>	英検ESG個人スコアレポート	団体CSEスコア			

重点的な取組事項－２		教師の指導力の向上 —SDGs を意識した教育の推進 ICT の活用能力と心を育てる資質・能力の向上—			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
ICT の活用能力と心を育てる資質・能力の向上		0JT ガイドラインに基づく育成段階ごとの目標達成 Hyper-QU web 版調査 2回目学級生活満足群数値の向上			
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
ICT 活用指導力の向上 校務の情報化による校務の負担軽減	○AI ドリルの活用 ○ICT を活用した3わ「(わかる・わくわくする・わらいがある)の授業を展開」 ○公務の情報化の実現と校務負担軽減の実感	○「情報教育年間計画」及び「情報活用能力花保小モデル」の作成と活用 ○情報化指導研修の実施。 ○ICT 環境の整備 ○出欠、成績、保健等の情報や図書等の管理、指導計画や指導案、デジタル教材、学習履歴等の情報化			
資質向上 SDGs を意識した教育の推進	○職層に応じた職務の遂行 ○SDGs を意識した教育活動の推進	○SDGs を意識した教育課程 ○校長レクチャー、転入・新規採用教員研修と若手教員養成塾の実施。 ○教科指導専門員の指導 ○自己申告面接の重視 ○学力・QU 分析研修の実施			
心の教育の充実 道徳授業の充実 いじめ防止	○Hyper-QU web 版調査 2回目学級生活満足群数値の向上 ・7つの習慣の日常化 ・いじめ報告数の減少	○全校朝会での講話 ○QU 調査の2回実施と分析 ○「リーダー・イン・ミー」教育の研究と日常的な推進 ・サンクスカードの通年実施 ○共通ゴールへの共通指導 ○無言清掃			

重点的な取組事項－3		保育園・幼稚園・中学校との連携			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
保育園・幼稚園・中学校との連携を密にし、入学時の円滑な接続と基礎学力の定着を図る。		幼保中と連携して教育を進め、下記の2項目を達成する。			
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
保育園・幼稚園との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>○円滑に小学校生活をスタートすることができ、4月中に小学校生活に慣れる。</li> <li>○学びにつながる生活習慣を身に付けさせるために、連携園と共通テーマを決めて実践。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○小学校スタートカリキュラムに基づいた週案簿の作成</li> <li>○4月入学時実態調査の公表</li> <li>○連携保育園・幼稚園 <ul style="list-style-type: none"> <li>・卒園児状況参観（4月）</li> <li>・校長講話（園保護者対象）</li> <li>・花保小エリア園長会議の実施</li> </ul> </li> </ul>			
花保中学校との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業力を高めるための研究交流授業の実施</li> <li>○見学、交流活動の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業参観と協議会</li> <li>○児童・生徒の状況についての情報交換・調整会議（随時） 中学校見学と部活動体験</li> <li>○中一合宿の教員派遣</li> </ul>			